

## 総 評

昨年につづき、コロナ禍にもかかわらず出品点数が増加し喜ばしく思います。技術的に大変高度な作品や、一筆一筆に思いのこめられた作品、ユニークで斬新な表現をこころみられている作品等、鑑賞者を楽しませてくれる作品がいっぱいの展覧会となりました。小品の中にも魅力のある作品が多くありました。次回は大作で出品されることを期待致します。一人一人の創作活動が活発に展開されますよう、ますます地域の魅力があふれる展覧会となりますよう願っております。【田中】

## 甲賀市展賞 『時を待つ』 はまうらあつこ

今回の審査で一番、目に留まったのがこの作品でした。構図はもちろんの事、白と黒のバランス、コントラスト、肌の質感、手と衣服、背景の位置関係や作品の見せ方など文句なしの評価でした。これからも皆の目に留まる作品を期待します。【小泉】

## 甲賀市議会議長賞 『いきるといふこと・・・』 土山 道夫

絵を描く前の下地の仕事に大変時間と、作者のこだわりがあると感じとれます。色が大変美しく画面にひきこまれていきそうです。【田中】

## 甲賀市教育委員会教育長賞 『慈光朽ちて尚』 松浦 暁子

色彩のバランス、特に強い光から影になる部分のバイオレットグレーが、とてもきれいに見えました。30号でありながら他の大きな作品に負けない強さを感じました。左の仏像の胸のあたり、もう少しハレーションをおこした様な描き方ができればもっと良くなったと思います。【小泉】

## 読売新聞社賞 『山池の冬景』 関谷 勇

単なる雪景かと思いつつしばらく眺めていますと、こまかい雪がちらちらと空から舞いおりてみえます。作者の一筆一筆のおもいをこめられた仕事がみる人に伝わったのではないのでしょうか。【田中】

## 中日新聞社賞 『山湖のカヌー乗り場』 畑野 啓造

最初にこの作品を拝見したときに、この模様は何？と思いました。良く見るとコラージュした作品で今回の展覧会にはない技法と効果が評価されました。水面に写る船の影にコラージュした布の模様を絵具と筆で描いていればさらに面白い、楽しませる作品になったでしょう。コラージュに頼るのではなく、コラージュを利用する事が大切だと思います。

【小泉】

佳 作 『ある日の休日』 杉本 洋二  
都会の一隅を俯瞰した構図が斬新で興味をひく作品となりました。色感にもうひと工夫あればよりいっそう魅力が出たかな。【田中】

佳 作 『アンコール、四面仏顔塔』 杉本伊三郎  
カンボジアに旅行されたのでしょうか。思い出の中一番印象に残った仏顔を画面いっぱいに描くことで強烈な印象をうけたことが伝わってきます。右端に青空を入れたことで画面に緊張感が出ています。【田中】

佳 作 『溪韻』 堤 智恵美  
滝の流れを主題とした水墨画。両脇からせまる岩と木々の表現が丁寧でこまかく、作者の絵に対する愛着を感じます。【田中】

佳 作 『A n t h u r i u m』 鮎川美知子  
色鉛筆で大変やさしく色美しく描きながらも大胆な構図が作品の力強さとなっています。昆虫がひそんでいても良いかな。【田中】

佳 作 『懐かしの商店街』 杉本 直樹  
ヴォーリスさんの建物でしょうか。さわやかな水彩作品となりました。建造物のどっしりとした感じがうまく表現できています。次回、大作を期待します。【田中】

佳 作 『四季満開』 福本 武  
タイル画を思わせる独特な技法を駆使し四季の花を表現され、ほんとうに花が好きで絵を描くことも好きな作者の気持ちがつたわってきます。【田中】

佳 作 『私は犬派』 李 美棋  
画面いっぱいに犬や猫の毛なみまで描かれて作者の動物への愛情が感じられます。背景にもう少し工夫があればもっと良くなったでしょう。【田中】

奨励賞 (水口ライオンズクラブ賞) 『ぬくもり』 松井 南萌  
背後からの人物描写がうまく成功しましたね。人物表現になくてもならない内面描写も伝わってきます。ただ、白の表現 (たとえば窓の白さ、光の白さ、壁の白さ) に質感が加わればもっと良くなるのでは。【田中】

## 総 評

様々なジャンルの作品が様々な幅広い年齢の方々によって出品されたことを嬉しく思いました。過去の誰かの作品ではない「創作」ということを重きに置いて制作に励んでいただくことを願います。【加藤】

いまだコロナ・オミクロン株の蔓延する中、多数の出品を嬉しく拝見しました。今年は意欲的な試みとを感じる作品が増え、今後の発展を期待しております。【廣田】

多岐にわたる手法を用いたレベルの高い作品が数多く、見応えのある展覧会になりました。中でも歩まれてきた人生をパッチワークで表現された作品はほのぼのとして大変印象的でした。また、新しい事に挑戦されている作品や、惜しい作品が多くあり、工芸の明るい未来が感じられました。【三原】

### 甲賀市展賞 『つながり』

土山 道夫

大きい立体作品で目を惹きます。和紙、ワイヤー、フェルト等、違質の素材を造形、デザイン、配色など、うまく調和させて仕上げられた秀作です。センサーで光る工夫もされています。【廣田】

### 甲賀市議会議長賞 『ふわふわ』

望月 眞寸男

大胆な造形と軽やかな模様と色彩が組み合わせり秀れた作品になっています。中央の穴？部分の仕上げや色にも更に留意することで、更に次の段階に進むことが期待できます。

【加藤】

### 甲賀市教育委員会教育長賞 『手織り 夕日の棚田』

田村 信子

夕日に映える棚田を表現された織作品です。水面に映る夕日の色調が心地よくみる人に懐かしい風景を呼び起させてくれる秀作です。【三原】

### びわ湖放送株式会社賞 『祝百寿』

松本 和美

百歳を迎えるおばあさんの四季折々の行事、日常をうまく図案化したパッチワーク作品です。優しく楽しいお祝いの気持ちが伝わってきます。【廣田】

### 朝日新聞社賞 『玄冬』

内藤三保子

重ね絞り染めのタペストリーの大作です。黒地に円と三角形を用いシンプルでかつ大胆に構成された作品で、絞り染独特の効果が出ていて黒地の空間に奥行きが感じられます。

【三原】

佳 作 『華組子紋六角皿』

大町 佳宏

緻密な彫り模様と土の色、質感が良く合った作品です。単品でも良かったのですが組作品として5枚組、あるいはもう少し大きいサイズを1枚+もう少し小さいサイズ5枚を並べると更に存在感が増すと思います。【加藤】

佳 作 『年の瀬近く』

望月 富美子

ツワブキの花の染色作品です。とてもよく花や葉をスケッチし制作されていて、画面に広がりを感じられます。【三原】

佳 作 『(和紙ちぎり絵) 公園の秋』

平尾 小代子

公園の落葉の中、それぞれに歩く姿が、効果的な遠近法で表現されています。奥行きを感じさせる黄色のグラデーションが心和む雰囲気も感じさせて、とても良いと思います。それぞれの人物の動きもよく考えられていて、紙の切り方・ちぎり方も工夫されています。

【廣田】

奨励賞 (甲賀ロータリークラブ賞)

『ジャイアントちくわ』

山本 悠冬

シンプルな造形でありながら全体に施された櫛目模様と燃成により変化をつけられた完成度の高い作品です。口づくりや底部に更に留意し技術的に改善すれば、更に優れた作品になる可能性を感じました。【加藤】

## 総 評

コロナ禍中にも関わらず、出品点数が増加し、皆様の書道に対する熱い思いが伝わってきて、うれしく思いました。作品制作を通して精神も身体も健康になっていく事を願っています。【柳谷】

## 甲賀市展賞 『常建詩』 望月 煒星

凜とした線、墨の膨らみ、それらが調和して美しい。密度感のある造形も程良い緊張感を作っている。強いて言えば、押印が白文であってほしい。秀逸の一品。【佐々木】

## 甲賀市議会議長賞 『陶淵明の詩』 橘 嘉代子

のびやかな線で書かれているのが、一番の魅力。線質も余白も美しく、たいへん佳い作品に仕上がっている。【柳谷】

## 甲賀市教育委員会教育長賞 『孫逖詩』 村田 知晏

丁寧な書き振り、静かに深く、格調の高い書作。文字の造形は書本来の姿を保ち美しい。名前も作品に調和している。他の作者達も参考にしてほしい。【佐々木】

## NHK大津放送局長賞 『杜甫詩』 大林 晨生

各行（全7行）が調和し、横展開の美しさを成している。文字造形において文字幅を作ることは難しいが、本来の文字の姿を生かし配字されている。特に後半の渴れは効果的。

【佐々木】

## 京都新聞賞 『万葉歌二首』 木邑 匡良

雅の書作。時に静、時に動、線の律動の変化が大らかな造形と共に美しい世界が表現されている。一部墨色に濃い線が見られたことが唯一残念である。懐の深い秀作。【佐々木】

## 佳 作 『春』 太田あゆ美

気宇が大きくて、広い世界を感じられる作品。基線がにじみに隠れてしまったのが残念。

【柳谷】

## 佳 作 『漢詩』 林 京子

力強いタッチで筆を運び、渴筆を混ぜることにより、明るい作品になっている。【柳谷】

佳 作 『落華驚蝶夢香逕倦蜂遊』 山口 晴美  
横画を強く書くことにより、紙面の広がりを出している。【柳谷】

佳 作 『徳不孤』 神山 珪泉  
雄大な作。一本の線を呼吸長く引くことは大変至難の技。秀逸である。【佐々木】

佳 作 『瑞烟呈福寿』 今井 泰山  
半切一行書、充実感のある熟達の手。実力のある方ですので、是非大作を期待する。  
【佐々木】

佳 作 『王維之詩』 松岡 晞心  
この形式に縦4行、中々難しい形式であるが、3行目を中心にした構成は見事。  
今後更に期待。【佐々木】

佳 作 『張潮詩』 福島 白桜  
文字の大小を潤渇の変化が作品に広がり余白の美をもたらしている。【佐々木】

## 総 評

コロナ禍の暗雲が未だ晴れぬなか「第17回甲賀市美術展覧会」写真の部も開催されました。市民の文化芸術への感心の高さ、甲賀市美術展覧会実行委員会のご尽力に感謝いたします。今回から審査も、西岡千春先生（日本写真家協会会員、滋賀県写真家協会会員、他）を迎え、2人態勢で審査することになりました。これが本来の審査体制ではないかと思っています。コロナ禍2年、写真撮影も制約の中、出品点数も、多少減少しましたが、現状のなかでは仕方がないと思っています。ただ、その分、内容も充実し的確に捉えた作品も数多く、仕上げのプリントも申し分なく審査も見応がありました。また、高校の部は出品数も増え写真に大切な表現力のある作品に感動しました。写真はテクニックだけでは心を打つ写真は撮れません、来期もまた、わくわくするような作品に出合えることを楽しみにしています。【大久保】

## 甲賀市展賞 『日吉の火祭り』

中森 敏樹

川から上がり必死でこちらに向かってくる様子が良くわかります。色調、プリントクオリティもよくインパクトのある作品になっています。ライトの当たった神輿を担いだ表情豊かな人たちがきっちりと主役になっており、前景の人物と斜めになった松明が独特な構図になり画面を引き締めています。【西岡】

## 甲賀市議会議長賞 『厳冬の薄化粧』

奥村 和弘

冬の枯蓮2本を主役に、脇役の薄氷、アートの凍りの湖面、大胆な作画の中にも計算された作品になっています。普通は湖面が黒く成りがちになりますが、濃いブルーのバックが厳冬の作品を上手くまとめています。【大久保】

## 甲賀市教育委員会教育長賞 『フィーリング』

成岡 幸和

シンプルな画面に湖岸を一人歩く人物の配置が絶妙で少し下を向いた様子が主人公のもの思う雰囲気をよく出しています。全体のソフトな仕上がりも効果的だったと思います。

【西岡】

## 産経新聞社賞 『一緒ならできる』

中森ますみ

兄弟仲良く、農作業の手伝い、大きなスコップ、頑張り、頑張りと言声聞こえて来そうです。ユーモラスな作品はコロナ禍でふさがちな日々にも元気を与えるようです。【大久保】

毎日新聞社賞 『孤独なランナー』 山田 幸子

街に設置された彫刻とその前を通り過ぎる人物の組み合わせですが、光の当たり具合などでバックを落したことで主題がわかりやすく表現されています。手前の彫刻が何事もなくずっと街の中を走っているという物語を感じます。【西岡】

佳 作 『羽ばたく』 伴 光藏

花だけをアップで捉えた作品、大胆な切り取りでアートの作品造りは、見る人を楽しませますね。【大久保】

佳 作 『丹頂たち・釧路湿原』 今井 一郎

組み写真で鶴と狐ほかの組み合わせを色々と見せられています。それぞれにシャッターチャンスが素晴らしく楽しんで見ることができました。ただ仕上がりがもう少し綺麗ならもっと良かったと思います。展示する以上「見せ方」も考えた方がいいと思います。【西岡】

佳 作 『波の吐息』 伊藤 美桜

ロウアングルでピントの幅が狭い設定の写真です。きっちりとした画面構成ではなく気軽に遊びに来てついでに撮ったようなお気軽な写真になっています。撮影した時の楽しい気持ちがあらわれています。【西岡】

佳 作 『新緑』 森岡 治夫

緑一面の画面の中に浮いているボート。彩度が高いようにも思いますが、それが不思議な空間を作っています。あまり大きくない赤いボートのサイズが良かったと思います。

【西岡】

佳 作 『夏の思い出』 小森 光司

真夏の太陽の下、虫を採集する少年のシルエットの作品は、モノクロで雰囲気たっぷり。お見事ですね。【大久保】

奨励賞 ((公社)水口青年会議所賞) 『なりわい』 野崎 文華

家のおばあちゃんでしょうか、目を細目、細かい仕事の手をスローシャッターで動きのある作品に仕上げたのは計算して撮影されたのでしょうか？あっぱれの一言につきます。

【大久保】